

とある少女の日記帳

サボテン男爵

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ポケモントレーナーとしての旅立ちを数か月後に迎えた、とある少女の日記帳。

旅立つ前の、ちょっとした出来事の羅列。

※1話読み切りの短編で、日記形式のネタです。その為設定面や時系列はあまり固まっていないフワフワ加減ですが、その辺りは軽い気持ちで読んでいただければ幸いです。

とある少女の日記帳

目

次

とある少女の日記帳

赤月 緑日

今日は育て屋のせがれである幼なじみが、なんだかやたらと目つきが鋭い力モネギを連れていた。色もわたしが知っている力モネギとは違つてこげ茶色っぽいし、色違いというやつだろうか？「立派な騎士になるんだぞー」と頭を撫でていたが、力モネギに騎士はないだろう。どちらかといえば侍だと思う。

力モネギのことはさておき、もうじきトレーナースクールも夏休みに入る。今年は親戚のいるアローラ地方で家族と過ごす予定だ。アイツは育て屋の手伝いをすると言つていた。ガラクタ集めが趣味だし、お土産くらいはあげようと思つて聞いてみたら、「きんのうかん」がいいと言われた。何だろうそれ？

手伝いは大変そうだが、10歳になる前にトレーナー資格を持つてるのは羨ましい。家の手伝いをするための限定的な資格だが、わたしも早くトレーナーデビューしたいところだ。

青月 黄日

夏休みも終盤。旅先のアローラではすっかり日焼けしてしまった。お風呂に入るときヒリヒリするのがたまらない。

格好いいライフセーバーさんがいたので一夏のラブロマンスに挑もうとしたが、「大人になつたらね」とはぐらかされてしまった。確かに大人と子供じゃ仕方ないだろう。だけど数か月後にはわたしも10歳。立派なレディーだ。そうしたらまたアタックしようと思う。

お土産を渡しにアイツの家を訪ねると、なんか力モネギが騎士になつていた。

目つきは一層鋭く、眉は太くたくましく。気品すら感じる佇まいに、正直イラつとした。

いや、別に何か悪い訳ではないんだけど。
進化したそなうだが、力モネギが進化するなんて初耳だつた。聞けば

遠く離れたガラル地方では数こそ少ないものの、確認されているらしい。動画にも撮つて P t u b e にアップしていたらしく、わたしも進化の瞬間を見ることができた。

結構コメントがされており、わたしのように「カモネギが進化するなんて知らなかつた」というものから、「合成じやないの?」「いや、進化するよ。ネギガナイトつてやつ。進化方法はわかつてないけど」「トレーナーの手持ちが進化した例は、ひよつとして初めてなんじや?」と議論になつていた。

ちなみにアイツは夏休みの自由研究として進化の一連の流れを記録しているそうだ。なんだかもう宿題の範疇を越えている気がする。でもどうしよう。わたし、自由研究のこと忘れてたわ……。

炎月 葉日

カモネギの進化についてのレポートはちょっととした反響になつたようで、ポケモン博士やTV局なんかもスクールを訪ねてきた。昼行燈な先生がきりきり舞いで対処していたのには、悪いけど笑つてしまつた。

そんな騒動もひと段落した今日この頃。アイツは変な魚ポケモンの面倒を見ていた。

ヒンバスというそうだ。何でもゲットしたトレーナーが育て屋にあずけていたそうだが、「珍しいから捕まえてみたけど弱つちいし、いらねー」と捨てていつたらしい。ヒンバスは悲しそうな顔をしていた。

あんまりな身勝手さにわたしは怒つたが、アイツは淡白な反応だつた。「いろんな考え方があるし、決定的に拗れる前に縁を切れてむしろよかつたんじゃないか?」とか言つてやがつた。冷たい奴だ。ヒンバスの前で言わなかつた分、良心はあるのかもしないが。

金月 銀日

育て屋に行くと、ミロカロスがダース単位でいた。何を言っているのか分からぬかもしれないが、わたしにも分からなかつた。

だつてミロカロスだよ？ いつくしみポケモンとして分類され、野生ではごく少數の個体のみが確認されており、手持ちにしているトレーナーも非常に稀。

その美しさと希少性から一部の地域では幻のポケモンとして扱われており、神様として祀つている民族もいるとか。

わたしだつて小さな頃には、写真集を広げて憧れの息をついたものだ。

主犯であるアソツを問い合わせたところ、進化前のポケモンが卵を大量に産んだので——と言葉を濁していた。進化前なんていたのか、初めて知つた。

今はダンスを仕込んでいるそうだ。当初はミロカロス48匹構成からなるMLC48なるユニットを計画していたらしいが、ご両親から「さすがに多過ぎだ」と止められたらしい。英断だと思う。

でも仕込んでいたダンスが“タケシのパラダイス”なる謎かつ奇妙なダンスだったので、急遽わたしがコーチとして参加することになつた。

ミロカロスたちとたっぷり戯れることができたので、余は満足である。

でも一匹のミロカロスの瞳が、あの時の Hinバスの瞳を彷彿とさせて……まさか、ね？

心月 魂日

Ptubeで公開したミロカロスたちの舞は、それはもうすさまじい反響だつた。

ネギガナイトの時とは比べ物にならないくらいだ。

でも必然ではあつたのだろう。一匹でも珍しいのに、ダース単位だ。しかもわたし監修のダンス付きだ。ちなみにバツクミュージックはコロトツク楽団。うん、わたしにはコーディネーターとしての才能もあるのかかもしれない。

再生回数もだが、広告収入もどんでもなかつた。SNSでもあちこちで話題に上げられ再生回数は伸びる一方。アイツはわたしにも一部を受け取る権利があると言つていたが、子供が持つ額じゃない。まあしつかり貰つたのだが。ちゃんとポケモンたちにも還元するといつてるので、そこは信用している。

でもこの一件で、多くのトレーナーやコーディネーターが町に押し寄せてきたので大変だつた。てんやわんやだ。

写真目当てや物珍しさならまだいいが、厄介なマニアや「オレの元にいた方が力を活かせる!」と謎の自信満々さを發揮してちょーだいと言つてくるDQNトレーナーには辟易した。

アイツはその辺りはポケモンたちの意思を尊重したようで、実際にトレーナーと気が合つた何匹かのミロカロスは旅立つていつた。過半数は残つたのだが。旅立ち組のこれから活躍を期待したい。

町長からも打診があり、町興しの為にミロカロステームのダンスを定期的に開催することになつた。主にお祭りの時などの目玉にしたいそうだ。確かに人は集まることだろう。わたしもトレーナーとしての旅立ちの時までに、コーチとしてしつかりやつていきたい。

ちなみに何たら団とかいう悪党がミロカロスを狙つてきたりもしたが、お忍びで来ていた凄腕トレーナーやジュンサンサーンたちに締められていた。でも人に向かつて“はかいこうせん”はわたし、ちょっとどうかと思うの。

他にもこの周辺にミロカロスの群生地があると勘違いした人たちが探し回つていたようだが、結局何も見つからなかつたようだ。それはそうだろう。きっとアイツがおかしいだけだ。

わたしの弟がトレーナーとしての勉強を始めた。

元々トレーナーにはあまり興味がなかつた弟だが、最近シンオウ地方で誕生した新チャンピオン・シロナの影響みたいだ。

なるほど、確かに目を引く人物だ。強いポケモン、派手なバトル、考古学者という博識さ。更には美人——10年後のわたしには劣るだろうが。

そんな彼女に憧れを抱くのは理解できる。

でもトレーナーとしてのノウハウを教わるのが、何故わたしでなくアイツなのか。

……まあ理由は分かつていて。シロナだ。彼女がインタビューの中で、アイツの動画は毎回チェックしていますなんて話していたせいで。

おかげでまた登録者数と再生回数が伸びている。有名人の声の影響は大きい。

でもアイツ、弟に「ポケモンをゲットするためにはあの子のスカートの中に突っ込んでいく氣概が必要」とか変態的なこと教えてやがつたから『けたぐり』をくらわせた。

天誅だ。

終月 始日

わたしもいよいよ旅立ちのときが近い。

待ちに待つたトレーナーデビュ。自分の足で世界を回り、多くの人やポケモンたちに出会っていくのだ。

期待もあるし、不安もある。あと旅の資金もたっぷりある。広告収入様様だ。でも税金関係で書類作成しているお父さんには申し訳なく思う。

アイツはまだ旅には出ないそうだ。これは前から言つていたことなので、わかつていたことだが。しばらくは育て屋の仕事やP t u b e rとして活動していくらしい。……もうあつちの方があつちの方が本業なん

じゃ？

旅先で珍しい道具を見つけたら入手しておいてほしいと頼まれた。その代わりといつてはなんだが、旅のお供としてポケモンを融通してくれるそうだ。もちろん、ポケモン側からOKが出ればだが。

なのでサニーゴをお願いしておいた。アローラに行つたときには目惚れしたのだ。ピンクの体に、つぶらな瞳。海中を優雅に泳ぐ姿には魅せられたものだ。ドヒドイデは許さないが。

いつかはゲットするつもりで生態なども勉強していたので、いつでも準備はOK！

アイツも「なるほど、なかなか通じやないか」とニヤリと笑つていた。うんうん、サニーゴの良さが分かるやつに悪いやつはない！ 楽しみに待たせてもらおう。

翠月 △日

トレーナースクールを卒業し、10歳を迎えたその日――

なんかアイツから死んだ目のサニーゴを託された。というか死んでた。体が白いんですけど!? ところどころ透けてるし!?

殺害犯と思われるアイツに思わず“じめつける”してしまつたが、よくよく聞いてみるとリージョンフォームというらしい。通常のサニーゴは水・岩の複合タイプだがガラル地方のサニーゴはゴーストタイプだとか。マジモンの亡靈らしい。環境問題とか今まであんまり興味がなかつたが、初めて身近に感じた。

最初はショッキングだったが、まあ慣れてみれば案外かわいい……と思う。

予想外だつたが約束どおりのサニーゴ。

アイツに言わせれば高個体値の呪われボディ。性格も団太くドーピング済み。“しんかのきせき”も付けるとか。進化はさせない方がいいとか。うん、ところどころ不穏なワードがあるのは無視すべきか。

「どーよ！　このやる気に満ち溢れた顔は！」とドヤ顔していたが、わたしには死んだ顔にしか見えなかつた。

ともあれせつかくの旅のお供。わたしとしても仲良くやつていきたいと思う。とりあえず半透明の枝の部分と握手。ひんやりとしていて、なんか背中がゾワツとした。

当初考えていた旅立ちとは違う展開になつたが、明日には長年住み慣れたこの町を旅立つ。

一丁、わたしの名を世界にとどろかせてやるぞー！！

※後にガイアクイーンと呼ばれる少女の日記より